

事例一対策一覧表【ベッドまわりでの転倒】 3/4

表内ゴシック体表記の対策は実施していた対策、色を塗ってある対策はその事例への考えられる物的対策、青字の対策はその事例への今後の対策として看護師があげた対策を表す。

No.	ケースNo.	病室名	発生場所	発生時間	患者タイプ	タイプA-I	タイプA-II	タイプB-I	タイプB-II	タイプC	その他対策	基本設定	看護師が調査票に記入した対策
9	308	武蔵野	ベッドサイド ベッドからベッドに移乗中転倒	15:00	A-I	車いす使用の状況・形状のNSコーン ■ 自立支援のための環境整備 ・ 介助バー	■ 自立および介助支援のための環境整備 ・ 介助バー、または立位支援ポール ■ 床敷きセンサー	■ ベッド配置・Nsアジャスターの近くとする ■ 移動補助器具を使用してADL自立の 場合は、患者一人でそれらの操作に 危険が予測される場合、ベッドサイ ドに設置しない ■ 自立支援のための環境整備 ・ 介助バー、または立位支援ポール ■ 床敷きセンサー	■ 移動経路の確保 ■ ベッドを低くする ■ 難床センサー ■ 座面センサー (座位時) ■ 介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中 または立位バランスが不安 定 ・ (**介助バー) または立位支援ポール	■ 装着物挿入の再検討 (除去できない場合) 装着物の固定位置、 方法、チューブ類のゆとりとの再検討 ■ 難床センサー ■ 自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中 または立位バランスが不安 定 ・ (**介助バー) または立位支援ポール	■ 患者の状態に適した ベッド配置 ・ 適切なスペースと しつらえの確保 ■ 床材 ・ 適度な摩擦係数 ・ 適度な弾力性 ■ 照明 ・ 周辺環境が視認可能 な夜間照明 ■ 履物 ・ 履きやすい、 歩きやすい	■ 看護師が調査票に 記入した対策 物的対策 Ns、コーン指 導	
10	101	武蔵野	ベッドサイド ポータブルトイレに移乗しようとした際 転倒 ポータブルトイレに一人 で移ろうとして転倒	0:30	B-I	■ 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) (車いす使用の場合) 移乗時、ベッドと車いすの座面を同じ高さにする ■ 押しやすい位置・形状のNSコーン ■ 自立支援のための環境整備 ・ 介助バー	■ 自立および介助支援のための環境整備 ・ 介助バー、または立位支援ポール ■ 床敷きセンサー	■ ベッド配置・Nsアジャスターの近くとする ■ 移動補助器具を使用してADL自立の 場合は、患者一人でそれらの操作に 危険が予測される場合、ベッドサイ ドに設置しない ■ 自立支援のための環境整備 ・ 介助バー、または立位支援ポール ■ 床敷きセンサー	■ 移動経路の確保 ■ ベッドを低くする ■ 難床センサー ■ 座面センサー (座位時) ■ 介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中 または立位バランスが不安 定 ・ (**介助バー) または立位支援ポール	■ 装着物挿入の再検討 (除去できない場合) 装着物の固定位置、 方法、チューブ類のゆとりとの再検討 ■ 難床センサー ■ 自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中 または立位バランスが不安 定 ・ (**介助バー) または立位支援ポール	■ 患者の状態に適した ベッド配置 ・ 適切なスペースと しつらえの確保 ■ 床材 ・ 適度な摩擦係数 ・ 適度な弾力性 ■ 照明 ・ 周辺環境が視認可能 な夜間照明 ■ 履物 ・ 履きやすい、 歩きやすい	■ 患者の状態に適した ベッド配置 ・ 適切なスペースと しつらえの確保 ■ 床材 ・ 適度な摩擦係数 ・ 適度な弾力性 ■ 照明 ・ 周辺環境が視認可能 な夜間照明 ■ 履物 ・ 履きやすい、 歩きやすい	■ 患者の状態に適した ベッド配置 ・ 適切なスペースと しつらえの確保 ■ 床材 ・ 適度な摩擦係数 ・ 適度な弾力性 ■ 照明 ・ 周辺環境が視認可能 な夜間照明 ■ 履物 ・ 履きやすい、 歩きやすい
11	415	武蔵野	病室内 ポータブルトイレで使用中、転倒 転倒 行動が滞りなくなり不穏行 動がみられた。付添者が病室を離れる とNsに伝えたので、他病室での用 事を済ませずぐに移動すると(3~4分 後)、4点押としていたのが3点押となっ ており、パンツが膝まで下がった状態で 床に倒れていた。ポータブルトイレには 一人で動いてしまった	17:55	B-II	■ 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) (車いす使用の場合) 移乗時、ベッドと車いすの座面を同じ高さにする ■ 押しやすい位置・形状のNSコーン ■ 自立支援のための環境整備 ・ 介助バー	■ 自立および介助支援のための環境整備 ・ 介助バー、または立位支援ポール ■ 床敷きセンサー	■ ベッド配置・Nsアジャスターの近くとする ■ 移動補助器具を使用してADL自立の 場合は、患者一人でそれらの操作に 危険が予測される場合、ベッドサイ ドに設置しない ■ 自立支援のための環境整備 ・ 介助バー、または立位支援ポール ■ 床敷きセンサー	■ 移動経路の確保 ■ ベッドを低くする ■ 難床センサー ■ 座面センサー (座位時) ■ 介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中 または立位バランスが不安 定 ・ (**介助バー) または立位支援ポール	■ 装着物挿入の再検討 (除去できない場合) 装着物の固定位置、 方法、チューブ類のゆとりとの再検討 ■ 難床センサー ■ 自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中 または立位バランスが不安 定 ・ (**介助バー) または立位支援ポール	■ 患者の状態に適した ベッド配置 ・ 適切なスペースと しつらえの確保 ■ 床材 ・ 適度な摩擦係数 ・ 適度な弾力性 ■ 照明 ・ 周辺環境が視認可能 な夜間照明 ■ 履物 ・ 履きやすい、 歩きやすい	■ 患者の状態に適した ベッド配置 ・ 適切なスペースと しつらえの確保 ■ 床材 ・ 適度な摩擦係数 ・ 適度な弾力性 ■ 照明 ・ 周辺環境が視認可能 な夜間照明 ■ 履物 ・ 履きやすい、 歩きやすい	■ 患者の状態に適した ベッド配置 ・ 適切なスペースと しつらえの確保 ■ 床材 ・ 適度な摩擦係数 ・ 適度な弾力性 ■ 照明 ・ 周辺環境が視認可能 な夜間照明 ■ 履物 ・ 履きやすい、 歩きやすい
12	105	武蔵野	ベッドサイド ベッドサイドにて尿器で排泄した際転倒 転倒 ベッドサイドで自己にて尿器排泄後、足 が滑り転倒に手を付いたが尿器をついてし まった	3:20	C	■ 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) (車いす使用の場合) 移乗時、ベッドと車いすの座面を同じ高さにする ■ 押しやすい位置・形状のNSコーン ■ 自立支援のための環境整備 ・ 介助バー	■ 自立および介助支援のための環境整備 ・ 介助バー、または立位支援ポール ■ 床敷きセンサー	■ ベッド配置・Nsアジャスターの近くとする ■ 移動補助器具を使用してADL自立の 場合は、患者一人でそれらの操作に 危険が予測される場合、ベッドサイ ドに設置しない ■ 自立支援のための環境整備 ・ 介助バー、または立位支援ポール ■ 床敷きセンサー	■ 移動経路の確保 ■ ベッドを低くする ■ 難床センサー ■ 座面センサー (座位時) ■ 介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中 または立位バランスが不安 定 ・ (**介助バー) または立位支援ポール	■ 装着物挿入の再検討 (除去できない場合) 装着物の固定位置、 方法、チューブ類のゆとりとの再検討 ■ 難床センサー ■ 自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中 または立位バランスが不安 定 ・ (**介助バー) または立位支援ポール	■ 患者の状態に適した ベッド配置 ・ 適切なスペースと しつらえの確保 ■ 床材 ・ 適度な摩擦係数 ・ 適度な弾力性 ■ 照明 ・ 周辺環境が視認可能 な夜間照明 ■ 履物 ・ 履きやすい、 歩きやすい	■ 患者の状態に適した ベッド配置 ・ 適切なスペースと しつらえの確保 ■ 床材 ・ 適度な摩擦係数 ・ 適度な弾力性 ■ 照明 ・ 周辺環境が視認可能 な夜間照明 ■ 履物 ・ 履きやすい、 歩きやすい	■ 患者の状態に適した ベッド配置 ・ 適切なスペースと しつらえの確保 ■ 床材 ・ 適度な摩擦係数 ・ 適度な弾力性 ■ 照明 ・ 周辺環境が視認可能 な夜間照明 ■ 履物 ・ 履きやすい、 歩きやすい

事例一対策一覧表【ベッドまわりでの転倒】4/4
表内コンテンツ体系表記の対策は実施していた対策、色を塗ってある対策はその事例への今後の対策として看護師があげた対策を表す。

No.	ケースNo.	発生場所	発生時間	患者名	発生状況	タイムA-I	タイムA-II	タイムB-I	タイムB-II	タイムC	その他対策	基本設定	看護師が提案した対策	物的対策	人的対策
13	204	病棟	5:10	B-11	ベッドサイド 患者の呼ぶ声で起きると、自分のベッドと隣のベッドの間に倒れていた。点検すると、ベッドの上には倒れていた。点検はスリッパからはずれていた。	タイムA-I 移動用具の選択と性能(床材との相性含む) ■(重いつり使用の場合) 移乗時、ベッドと重いつりの座面を同じ高さにする ■押しやすい位置・形状のNSコーン ■自立支援のための環境整備 ・介助バー	タイムA-II 移動用具の選択と性能(床材との相性含む) ■(重いつり使用の場合) 移乗時、ベッドと重いつりの座面を同じ高さにする ■押しやすい位置・形状のNSコーン ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・介助バー、または立位支援ポール	タイムB-I ・杖 ・点滴スタンド ■ベッド配置・NSF(おの)の近くとする ■移動補助器具を使用してADL自立の操作に危険が予測される場合、ベッドサイドに配置しない ■自立支援のための環境整備 ・(**介助バー) ・床敷きセンサー	タイムB-II 移動補助器具の確保 ■点滴スタンドを配置する場合は、患者がベッドを降りる際に設置 ■ベッドを低くする ■離床センサー(座位時) ■離床センサー(座位時) ■自立支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・(**介助バー) ・(**介助バー)	タイムC 装着物挿入の再検討 ■(除去できない場合) 装着物の固定位置、方法、チューブ類のゆとり ■ベッド配置・NSF(おの)の近くとする ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・(**介助バー) ・(**介助バー)	3点検	患者の状態に適したベッド配置とスリッパの確保 ■床材 ■硬度な弾力性 ■照明 ■周辺環境が視認可能 ■履きやすい ■歩きやすい	患者の状態に適したベッド配置とスリッパの確保 ■床材 ■硬度な弾力性 ■照明 ■周辺環境が視認可能 ■履きやすい ■歩きやすい	ベッドまわり の転倒防止 対策 スリッパ の確保	人的対策
14	205	病棟	6:00	B-11	ベッドサイド 不問 倒垂すると、ベッド欄を乗り越え床に落ちた	移動用具の選択と性能(床材との相性含む) ■(重いつり使用の場合) 移乗時、ベッドと重いつりの座面を同じ高さにする ■押しやすい位置・形状のNSコーン ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・介助バー	移動用具の選択と性能(床材との相性含む) ■(重いつり使用の場合) 移乗時、ベッドと重いつりの座面を同じ高さにする ■押しやすい位置・形状のNSコーン ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・介助バー	移動用具の選択と性能(床材との相性含む) ■(重いつり使用の場合) 移乗時、ベッドと重いつりの座面を同じ高さにする ■押しやすい位置・形状のNSコーン ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・介助バー	移動用具の選択と性能(床材との相性含む) ■(重いつり使用の場合) 移乗時、ベッドと重いつりの座面を同じ高さにする ■押しやすい位置・形状のNSコーン ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・介助バー	装着物挿入の再検討 ■(除去できない場合) 装着物の固定位置、方法、チューブ類のゆとり ■ベッド配置・NSF(おの)の近くとする ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・(**介助バー) ・(**介助バー)	4点検	患者の状態に適したベッド配置とスリッパの確保 ■床材 ■硬度な弾力性 ■照明 ■周辺環境が視認可能 ■履きやすい ■歩きやすい	患者の状態に適したベッド配置とスリッパの確保 ■床材 ■硬度な弾力性 ■照明 ■周辺環境が視認可能 ■履きやすい ■歩きやすい	ベッドまわり の転倒防止 対策	人的対策
15	301	病棟	4:50	B-11	ベッドサイド 不問 離床センサーが鳴り病室に駆けつけたところ、すでに患者はベッド欄を乗り越え床に倒れていた。患者の行動目的は不明	移動用具の選択と性能(床材との相性含む) ■(重いつり使用の場合) 移乗時、ベッドと重いつりの座面を同じ高さにする ■押しやすい位置・形状のNSコーン ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・介助バー	移動用具の選択と性能(床材との相性含む) ■(重いつり使用の場合) 移乗時、ベッドと重いつりの座面を同じ高さにする ■押しやすい位置・形状のNSコーン ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・介助バー	移動用具の選択と性能(床材との相性含む) ■(重いつり使用の場合) 移乗時、ベッドと重いつりの座面を同じ高さにする ■押しやすい位置・形状のNSコーン ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・介助バー	移動用具の選択と性能(床材との相性含む) ■(重いつり使用の場合) 移乗時、ベッドと重いつりの座面を同じ高さにする ■押しやすい位置・形状のNSコーン ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・介助バー	装着物挿入の再検討 ■(除去できない場合) 装着物の固定位置、方法、チューブ類のゆとり ■ベッド配置・NSF(おの)の近くとする ■自立および介助支援のための環境整備 座位可能で立位訓練中、または立位パランスが不安定 ・(**介助バー) ・(**介助バー)	4点検	患者の状態に適したベッド配置とスリッパの確保 ■床材 ■硬度な弾力性 ■照明 ■周辺環境が視認可能 ■履きやすい ■歩きやすい	患者の状態に適したベッド配置とスリッパの確保 ■床材 ■硬度な弾力性 ■照明 ■周辺環境が視認可能 ■履きやすい ■歩きやすい	ベッドまわり の転倒防止 対策	人的対策

表 分析患者数

		分析患者数
A病院	12月	351
	1月	438
小計		789
B病院	12月	434
	1月	553
小計		987
合計		1,776

表 病棟別分析対象患者数

		12月	1月	合計
		割合	割合	割合
A病院	全科病棟	5.4%	5.9%	5.7%
	脳外科・耳鼻科・神経内科病棟	12.5%	11.2%	11.8%
	呼吸器内科・内分泌代謝病棟	12.3%	10.5%	11.3%
	CCU病棟（循環器内科・心臓外科病棟）	1.4%	1.1%	1.3%
	HCU病棟	6.8%	7.5%	7.2%
	ICU病棟（救命救急科・脳外科他病棟）	2.3%	1.4%	1.8%
	小児科・消化器内科・感染症病棟	3.4%	3.4%	3.4%
	小児全科・眼科病棟	1.7%	3.0%	2.4%
	泌尿器科・婦人科・外科・形成病棟	14.0%	10.0%	11.8%
	消化器内科・腎臓内科病棟	13.7%	11.0%	12.2%
	循環器内科・心臓外科病棟	6.6%	6.8%	6.7%
	消化器内科・血液内科病棟		9.6%	5.3%
	外科病棟	10.5%	9.8%	10.1%
	整形外科病棟	9.4%	8.7%	9.0%
	病院別患者数	351	438	789
B病院	緩和ケア病棟	3.7%	3.8%	3.7%
	神経内科・脳神経外科病棟	5.1%	8.5%	7.0%
	全科病棟	3.5%	5.6%	4.7%
	精神神経科病棟	9.4%	8.1%	8.7%
	心臓血管外科・循環器内科病棟	2.3%	3.1%	2.7%
	心臓血管外科・循環器内科・眼科・糖尿病棟	6.9%	7.4%	7.2%
	消化器内科病棟	10.4%	8.7%	9.4%
	外科・泌尿器科・耳鼻科	8.3%	7.6%	7.9%
	外科病棟	8.3%	8.7%	8.5%
	外科・皮膚科・呼吸器・肺外科・小児科病棟	9.0%	8.1%	8.5%
	産婦人科・泌尿器科病棟	8.8%	5.8%	7.1%
	整形外科病棟	7.1%	6.9%	7.0%
	血液内科・腎臓内科・ペインクリニック科病棟	6.0%	8.0%	7.1%
	呼吸器科・肺外科・ペインクリニック科病棟	8.5%	7.8%	8.1%
	CCU病棟	1.4%	1.1%	1.2%
ICU病棟	1.4%	0.9%	1.1%	
病院別患者数	434	553	987	
全患者数	785	991	1776	

表 分析患者の属性

		A病院			B病院		
		12月	1月	合計	12月	1月	合計
		%	%	%	%	%	%
年代	10-	0.6%	0.5%	0.5%	0.7%		0.3%
	20-	2.0%	2.5%	2.3%	4.2%	3.3%	3.7%
	30-	4.3%	3.7%	3.9%	9.0%	8.5%	8.7%
	40-	8.8%	7.5%	8.1%	8.8%	9.2%	9.0%
	50-	15.1%	14.8%	15.0%	18.8%	18.6%	18.7%
	60-	21.4%	24.0%	22.8%	20.9%	20.8%	20.8%
	70-	32.8%	30.8%	31.7%	24.4%	23.9%	24.1%
	80-	12.5%	13.5%	13.1%	11.4%	13.2%	12.4%
	90-	2.6%	2.7%	2.7%	1.9%	2.5%	2.2%
全体患者数		351	438	789	431	553	984
性別	男性	58.0%	54.8%	56.2%	52.0%	54.9%	53.6%
	女性	42.0%	45.2%	43.8%	48.0%	45.1%	46.4%
全体患者数		350	438	788	431	550	981

表 アセスメント別患者数（ベッドからの転落の場合）

		患者数	割合
転落タイプ	A	1,316	74.1
	B-I	150	8.4
	B-II	86	4.8
	C-I	90	5.1
	C-II	134	7.5
合計		1,776	100

表 アセスメント別患者数（ベッドまわりでの転倒の場合）

		患者数	割合
ベッド転倒タイプ	A-I	1,009	56.8
	A-II	249	14.0
	B-I	50	2.8
	B-II	136	7.7
	C-I	133	7.5
	対象外	199	11.2
合計		1,776	100.0

表 アセスメント別患者数（トイレまわりでの転倒の場合）

		患者数	割合
トイレ転倒タイプ	A-I	1,060	59.7
	A-II	22	1.2
	A-III	146	8.2
	B-I	56	3.2
	B-II	4	0.2
	B-III	111	6.3
	C-I	36	2.0
	C-II	5	0.3
	C-III	69	3.9
	対象外	267	15.0
合計		1,776	100.0

表 アセスメント別患者数（廊下での転倒の場合）

		患者数	割合
廊下転倒タイプ	A-I	942	53.0
	A-II	198	11.1
	B-I	38	2.1
	B-II	95	5.3
	C-I	31	1.7
	C-II	44	2.5
	対象外	428	24.1
合計		1776	100.0

表 上位20%病棟、下位20%病棟の病棟名リスト

	病棟名	ベッドからの転落	ベッドまわりの転倒	トイレまわりの転倒	廊下での転倒
上位20%病棟	A病院：小児全科・眼科病棟		○	○	○
	A病院：消化器内科・血液内科病棟	○			
	A病院：整形外科病棟	○			
	B病院：外科・泌尿器科・耳鼻科		○	○	○
	B病院：外科・皮膚科・呼吸器・肺外科・小児科病棟		○	○	○
	B病院：血液内科・腎臓内科・ペインクリニック科病棟	○	○	○	○
	B病院：産婦人科・泌尿器科病棟	○	○	○	○
	B病院：心臓血管外科・循環器内科・眼科・糖尿病棟	○	○	○	○
	B病院：整形外科病棟	○			
下位20%病棟	A病院：CCU病棟（循環器内科・心臓外科病棟）	○	○	○	○
	A病院：HCU病棟	○	○	○	○
	A病院：ICU病棟（救命救急科・脳外科他病棟）	○	○	○	○
	B病院：CCU病棟	○	○	○	○
	B病院：ICU病棟	○	○	○	○
	B病院：緩和ケア病棟		○	○	○
	B病院：神経内科・脳神経外科病棟	○			

表 病棟タイプ別の患者タイプ構成（ベッドからの転落）

	A	B-I	B-II	C-I	C-II	患者数
上位20%病棟	90.8%	4.6%	2.3%	0.8%	1.5%	393
中位60%病棟	74.6%	9.1%	4.1%	6.4%	5.8%	1,210
下位20%病棟	32.4%	12.7%	15.6%	5.8%	33.5%	173
全体	74.1%	8.4%	4.8%	5.1%	7.5%	1,776

表 病棟タイプ別の患者タイプ構成（ベッドまわりでの転倒）

	A-I	A-II	B-I	B-II	C-I	対象外	患者数
上位20%病棟	77.3%	8.2%	3.6%	2.8%	3.8%	4.3%	392
中位60%病棟	56.2%	15.6%	2.7%	8.8%	8.0%	8.6%	1,243
下位20%病棟	5.0%	16.3%	1.4%	11.3%	12.8%	53.2%	141
全体	56.8%	14.0%	2.8%	7.7%	7.5%	11.2%	1,776

表 病棟タイプ別の患者タイプ構成（トイレまわりでの転倒）

	A-I	A-II	A-III	B-I	B-II	B-III	C-I	C-II	C-III	対象外	患者数
上位20%病棟	80.9%	0.3%	3.6%	4.3%	0.3%	1.5%	2.8%	0.0%	0.8%	5.6%	392
中位60%病棟	59.1%	1.7%	9.6%	3.0%	0.2%	7.2%	1.9%	0.4%	4.3%	12.5%	1,243
下位20%病棟	5.7%	0.0%	9.2%	1.4%	0.0%	10.6%	0.7%	0.0%	8.5%	63.8%	141
全体	59.7%	1.2%	8.2%	3.2%	0.2%	6.3%	2.0%	0.3%	3.9%	15.0%	1,776

表 病棟タイプ別の患者タイプ構成（廊下での転倒）

	A-I	A-II	B-I	B-II	C-I	C-II	対象外	患者数
上位20%病棟	77.0%	5.6%	3.1%	2.0%	2.8%	0.5%	8.9%	392
中位60%病棟	51.2%	13.4%	2.0%	6.1%	1.5%	2.8%	22.9%	1,243
下位20%病棟	2.1%	7.1%	0.7%	7.8%	0.7%	5.0%	76.6%	141
全体	53.0%	11.1%	2.1%	5.3%	1.7%	2.5%	24.1%	1,776

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者指名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
なし	なし	なし	なし	なし	なし